

有年地区の歴史文化遺産一覧(1)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	もの	場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
						1	2	3	4	5	6	
1	地藏立像板碑	◎			24 25 29 35	●						中世の石仏では市内最大で、延文3(1358)年の紀年銘をもつ。この石仏は彫られた石が地中から生え出たように見えることから「はえぬき地藏」もしくは「唐抜け地藏」と呼ばれている(赤穂の昔話)。近隣には阿弥陀如来と地藏菩薩の石仏がある。県指定。
2	石造宝篋印塔(往來南)	◎			22 24 25 29	●						西有年の旧西国街道に沿った北側にあり、もとは300mほど西の街道筋にあったが、ほぼ整備に伴い平成7(1994)年に現在地に移築。紀年銘がないが、隅飾突起の反りや切込みの具合、塔身内の月輪や梵字の大きさ、葉研彫りの彫法、反花座の蓮弁の様式、基礎の格狭間の形などから見て南北朝時代中期ごろ(14~15世紀初頭)のもとも推測される。地元では、大將軍の墓と伝わる。市指定。
3	向山五輪塔	◎			22 24 25 29	●						向山の北麓、中世の筑紫大造(近世の旧西国街道)に面して立地する。鎌倉時代末から室町時代初頭頃と推定される五輪塔。花崗岩製の高さ約1.7m大形のもので、地輪・水輪・火輪・風輪・空輪のそれぞれの四面に梵字が刻まれている。市指定。
4	石造題目笠塔婆	◎			24 25 29	●						黒沢山山頂にある、光明寺本堂跡を取り巻く五輪塔や宝篋印塔群に混じって建立されている。「康永4(1345)年乙酉七月十三日」と刻まれている。市指定。
5	石造宝篋印塔(光明寺跡)	◎			24 25	●						黒沢山山頂の光明寺跡には宝篋印塔や五輪塔が多数残されており、その多くは南北朝前期後の形式を備えていて、寺が最も栄えていた時期を示している。その一つに正面右東部に「建武二(1335)乙亥五月日」、左東部に「金剛佛師良円」の銘をもつ宝篋印塔がある。市指定。
6	光明寺町石	◎			22 24 25 27 29	●						光明寺奥の院参道にあり(一部は赤穂市立有年考古館に移設)、五輪塔の地輪部(基礎)を長した長脚五輪卒塔婆形式のもので、基礎部に経典名や町数、願主名などが刻まれている。市指定。
7	榎原村文書及び榎原自治会文書(村1,083点/自治会1,375点)	◎					●					近世・近代にわたる榎原村文書2,139点、近現代の榎原自治会文書319点からなり、市内最多の村文書である。森赤穂藩が出した領域支配のための藩法・触書が年次を追って書き写されており、藩の行政・経済政策の推移を詳細に捉えることができる。村方の状況に関する多年にわたる史料が連続して遺されているところは希で、榎原自治会文書には、田畑ばかりでなく山林原野の地租改正、地価修正に関する帳簿も西播地域では珍しく揃って残されている。市指定。
8	原村文書	◎					●					寛永2(1625)年以降、昭和初年に至る同地の村方文書(村会所文書)で、長期にわたる村方支配の様子を示したものである。なかでも土地関係では江戸時代を通じての土地台帳が保存されている。山陽道の宿場(東有年)に隣接し、千種川水運の中継地でもあったため、交通運輸に関する通達書などの史料も多い。市指定。
9	有年考古館収蔵考古資料	◎			23 34						●	松岡秀夫によって昭和25(1950)年に設立された考古・民俗資料館に収蔵された資料で、収蔵資料は地域の歴史文化を理解する上で極めて重要なもの。市指定。
10	有年原・田中遺跡出土柱部材	◎			23 34						●	発掘調査によって旧河内道内から発見された、掘立柱建物の柱部材。材質はヒノキ、時代は弥生時代後期と考えられており、上部に梁をかける凹みがあり、貫を通す穴があげられていることから、倉庫の柱と考えられている。市指定。
11	西有年・長根遺跡出土木槽臼	◎			23 29 34						●	室町時代の井戸内に投棄されて見つかった木製の木槽臼。全国的に出土例が珍しく、出土遺物としては国内最古の資料である。市指定。
12	有年原・田中遺跡墳丘墓出土土器	◎			23 34						●	ほぼ場整備事業に伴う発掘調査によって発見された、大型墳墓群出土の装飾土器群。有年原・田中遺跡墳丘墓は、弥生時代から古墳時代の移行期における埋葬遺構として極めて重要であり、墳丘墓の年代を決定づけ、同時期の葬送儀礼の様相を示すものとして貴重である。市指定。
13	黒尾須賀神社義士画像(絵馬及び奉納額)	◎			26						●	嘉永2(1849)年に地域住民を施主として奉納された絵馬群。京狩野派とされる菅原永得画の義士絵馬49枚とその奉納額1面で構成される。旧赤穂郡内最古の義士絵馬として市指定文化財(歴史資料)に指定されている。現在、劣化のため歴史博物館に寄託されており、現地にはレプリカが展示されている。市指定。
14	前句集額	◎									●	明和5(1768)年に奉納された前句集額で、当時の庶民の文芸隆盛の様子がうかがえる資料。市指定。
15	牟礼八幡神社農耕図絵馬	◎			33						●	明治10(1877)年に奉納された木製扁額で、農作業絵や祭礼絵が九区画に分割して描かれている。描かれた農具と用法がよくわかり、江戸時代末期の農業の実態をよく伝えている。市指定。
16	六地藏	●			25						●	赤穂市南部にあった六地藏のほとんどは南野中の斎場付近に移築されているが、有年地区については現在も墓場周辺に六地藏が残り、横山墓池、北上原宮(2か所)、東中野、西中野、上菅生、光明寺、中所、原、河原、谷口、横尾、片山、野田、新田、北島、井田、山田、黒尾、中島の20か所の分布が知られている。
17	地藏(田中)	●			25						●	姨無山山麓にあり、舟形後背をもつ半肉彫りの石仏。像高117cm、正徳2(1712)年2月9日の造立。
18	地藏・阿弥陀如来像(円明庵跡)	●			25						●	かつての庵跡部に丸彫りの地藏坐像(像高30cm)、板碑形後背をもつ阿弥陀如来像(像高47cm)がある。
19	月見地藏	●			25						●	かつては戦時中に有年横尾谷口に疎開していた人々によって信仰されていた。像高24cmの丸彫りの石造地藏。
20	塚の元地藏	●			22 25						●	旧西国街道の一里塚があったところに像高100cmの丸彫りの石造地藏が祀られている。享保9(1724)年の造立。
21	蛇淵の薬師石仏	●			22 25 35	●					●	矢野川の深淵の底から引き揚げられたものと言われ、病氣・怪我の治癒や、雨乞いの神として信仰されている。(赤穂の昔話)
22	向山権地藏	●			22 25						●	国道2号沿いにあるガソリンスタンド造成中に発見された、高さ40cmの花崗岩製の座像。磨滅が激しいが現在はこのガソリンスタンドの東隣に安置されている。
23	清水山登り口の地藏	●			22 25 27						●	はりまの宅地造成中に発見された、明和9(1772)年銘の地藏。現在は、はりまの公園内に安置されている。
24	大山登り口地藏	●			22 25 27						●	上菅生から西有年へ越す峠の入口にあり、大山峠方面へ行く人々や山仕事へ行く村の人の安全を祈願して建立されたもの。50cmと70cmの2体の地藏でともに座像。建立年代は不詳だが江戸時代のもものと推定される。
25	清水峠地藏	●			22 25 27						●	上菅生から横山へ抜ける道の頂上にある、高さ70cmの自然石の立像。光背には「天保9(1838)戊午六月 世話人谷中」と刻まれている。
26	傍示ヶ鼻地藏	●			22 25 27						●	旧有年小学校跡地の西、細長く突出した尾根の先端付近を傍示ヶ鼻といい、東有年と西有年の境界となっている。地藏はもと旧国道坂折峠に祀られていたが、この尾根の先端東側の中腹に移築された後、現在は光明寺の境内に移されている。「さおれ峠の地藏」とも呼ばれ、高さ2m余りの立像で、当時交通の難所であった坂折峠の安全を願って、時の庄屋であった有年長左衛門が施主となり天保8(1837)年に建立した。
27	寺山地蔵	●			22 25 27						●	片山から光明寺への参道、奥池の堤にある。高さ95cmほどの石造で、表に「理覚宗純 本覚知純」裏に「光屋長次良父」の銘がある。
28	共同墓地地藏(片山共同墓地)	●			25						●	半肉彫りの地藏菩薩像・阿弥陀如来像がある。像高はそれぞれ36cm、40cm。
29	鯉峠の地藏(馬路の地藏)	●			22 25 27						●	かつて交通の難所であった鯉峠の道中安全を願って建立された、高さ1.2mの立像。明治13(1880)年ごろ建立され、明治37(1904)年に再建された。
30	湯の内地藏	●			25 27						●	かつて西有年から大津へ抜ける山道に祀られていた高さ1.6mほどの立像。現在は横山集会所脇に安置されている。
31	地藏(横山)	●			22 25 27						●	かつて大山西峠に祀られていたが、現在は県道横山線沿い六軒家付近に移されている。高さ43cmの半肉彫り地藏。
32	不動山石仏	●			22 25 27	●					●	千種川と長谷川の合流点を不動ヶ淵といい、かつては交通の難所であった。迫るような断崖絶壁の岩壁に高さ30cmの不動明王像が祀られていたが、近年は落盤のため現在地に社が建立され、移された。
33	八十八ヶ所石仏	●			25						●	光明寺の奥まった山の斜面に、左右に整然と88体が並んでおり、明治治8~10(1875~1877)年にかけて建立された。ほかに明治10(1877)年頃に建立された三十三ヶ所石仏もある。
34	重ね荒神	●			25						●	巨石を二つ重ねた祠。妻の神、稲荷社を祀っているという。
35	原組の道標	●			22 25 27						●	高さ60cm、幅28cmの道標には「是乃 石ハ かみこを里 左ハ山のさと 道」と刻まれている。現在は原組集会所に移設されている。
36	有年村道路元標	●			22 25 27						●	旧有年駅の南「有年駅前」交差点から県道高年横尾線を南に入り、かつての旧道との交差点付近に建つ。戦後の県道拡幅時に撤去されたが、平成3(1991)年にもとの位置近くに立て直された。高さ67cm、25cm角の花崗岩製の石標で表「有年村道路元標」、裏「兵庫縣」と刻む。
37	道標(中島)	●			22 25 27						●	矢野川にかかる中島橋の右岸に建つ、高さ62cm、21cm角の道標。「右 上郡 左 ウネニキ」と並び刻まれ、その中央には「道」が同記されている。他面には「大正十二(1923)年十月」とある。
38	道標(塚の元)	●			22 25 27						●	国道2号拡幅改修時に取り除かれていたが、地元の協力により平成3(1991)年に元の位置近くに建て直された。「右 上郡鳥取道」「左 岡山広島道」「御大典記念 昭和三(1928)年」と刻んでいる。
39	寺山道標(片山)	●			22 25 27						●	東有年の片山から谷筋の道を登り、砂防ダムから北東へ100mほどのところにあり、かつて榎原と黒沢への道を示したものである。高さ66cm、17cm×15cmの花崗岩製で、「右ならはら 左くろさは」と刻む。
40	寺山道標(三軒家)	●			22 25 27						●	有年橋原の三軒家の谷筋の道を登ったところにあり、かつて片山と黒沢への道を示したものである。高さ56cm、15cm×14cmの花崗岩製で、「右くろさは 左うね」と刻む。
41	村境の道標	●			22 25 27						●	旧山陽道沿いの高山屋敷敷地にある。高さ50cm、26cm角の村境の石標で、正面に「東 牟礼東村 西 横尾村」と並び刻まれている。
42	道標(宮前)	●			22 25 27						●	旧国道沿いに東有年集落を西に出たところがあったが、現在、赤穂市立有年考古館に移設されている。左に行けば赤穂城下まで三里、右へ行けば西国街道という内容が刻まれている。

有年地区の歴史文化遺産一覧(2)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	も 場 所	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
				1	2	3	4	5	6	
43	池魚塚(西有年)	●	25	●	●					高さ約1.5mほどの自然石を加工したもので、表に「南无阿弥陀仏」と記された下に横書きで「池魚塚」、側面に「安政五(1858)年戊午三月 〇原 宮原中」と刻まれている。目の前にある木ノ目池の池魚に対する供養塔。
44	池魚塚(塚の元)	●	22 25 27	●	●					道路改修資金のために売られた池の魚への感謝と供養の塚。天保7(1836)年の年号が見られる。
45	西川須賀神社移転記念碑	●	25 27	●						明治25(1892)年7月23日の千種川大洪水の後、須賀神社(西川)を原村に合祀したことにより、明治42(1909)年に祠跡に記念碑を建てたもので、高さ150cm、幅87cmを測る。
46	奥池増築記念碑	●	25	●						昭和15(1940)年、奥池の増築を記念して建立された。
47	有年大池竣工の碑	●	25	●						戦前から食糧不足、農地の開拓、農業用水の確保のために県事業によって竣工した有年大池の竣工記念碑。昭和28(1953)年建立。
48	山林保護記念碑	●	25						●	西有年は山林所有者が多く、野山も1,300町歩と広大な面積を持っているが、鋸を持って山に入ることは快く思われておらず、時々村役人によって取締りが行われていた。この碑文からは、違反者を取り締まった安藤佐太郎の数々の労苦に対する感謝の意を知ることができる。明治34(1901)年に建立。
49	岩本吉太郎崇徳碑	●	26	●						昭和27(1952)年、若くして神戸で米商店を営んで収入を得、郷里の有年奉礼八幡神社、山田地区の池改修等に多額の寄付を行った岩本吉太郎を顕彰して建てた石碑。
50	立花裁縫先生墓碑	●	26						●	明治35(1902)年建立、上郡町大枝新より奉礼立花氏に嫁ぎ、近郷の子々に裁縫、行儀作法を教えた。台石に門下生60余の名を刻む。
51	里正甚蔵の墓	●	26	●						安政2(1855)年、里正甚蔵の功績を讃え村の人々が集まって建てた。
52	谷口庄三碑	●	26	●						明治35(1902)年、赤穂郡長古田庸によってその業績が漢文で刻まれており、里正甚蔵の墓とともに建ち並んでいる。
53	沼田蘭山先生之碑	●	26						●	須賀神社(有年原)南西の矢野川土手沿いにある沼田宅庭先に建てられている。学問・多芸に優れ、地元有年の人々のみならず、遠く船坂・三石・高田の人々にも源氏流活花・算盤・習字などを指導。大正8(1919)年、門弟たちが業績・徳を慕って碑を建立。碑文の揮毫は当時、赤穂郡長であった古田庸によるもの。
54	三宅先生墓	●	26	●						三宅光広は通称新助といひ、木生谷の人。有年奉礼原村に移り住み、寺子屋「正訓堂」で教えた者800余人といひ。明治4(1871)年の光広死去後、明治5(1872)年に門弟が建立した。高さ192cmを測る。
55	三宅光政先生墓	●	26						●	三宅光政は如山と号し、明治(1874)年から原村時習小学校の教員となり、明治34(1901)年に校長を務めた。明治42(1909)年に死去。明治43(1910)年に建立された墓は、高さ216cmを測る。
56	大嶋先生墓	●	26						●	加里屋に生まれ、41歳で有年に住み子弟に教授した。天保10(1839)年2月に病卒。嘉永元(1848)年に墓碑を建立。
57	平井先生之墓	●	26						●	赤穂城下の人、大島方助長直の次子。幼少より数学を好み赤穂算学を修める。門人甚だ多く、石碑建立に際しては300人が関係したといひ。天保1(1833)年建立。
58	山崎先生之碑	●	26						●	赤穂郡原村、室井定五郎の七男として生まれ、幼い頃から文学、算術が好きであった。奥義を極め郷里に帰り、弟子千余人、教授となって各村の公務所を助けた。明治9(1876)年の地租改正令の後、山林原野の調査測量を監督した。明治17(1884)年に78歳で亡くなり、明治23(1890)年に墓碑建立。
59	江見裁縫先生碑	●	26						●	鞍馬野桑より原村江見氏に嫁ぎ、近郷の子々に裁縫を教えた。大正2(1913)年建立。
60	生花源氏流家本千葉龍式墓	●	26						●	明源寺住職で源氏流活花家本であった千葉龍式の墓。明治23(1890)年建立。
61	松岡博士之像	●	26						●	松岡助之助医学博士は、松岡兼助の長男として明治21(1888)年に生まれ、大正14(1925)年に松岡眼科病院を創立、医学研究に努めるかたわら地元青年の指導・育成や郷土史の探求を行った。有年考古館初代館長であった松岡秀夫氏の兄にあたる。像は赤穂市立有年考古館の東に建ち、碑文は市川博士による424文字に及ぶ漢文銘。
62	大田松岳翁寿碑	●	26						●	京都六角堂池之坊に入門し、挿花の道を学び研鑽に努め、奥儀を究めるとともに重要な職につき、その道の発展に尽力した。大正10(1921)年建立。
63	小河先生墓	●	26						●	小河孫右衛門は本名を秀田といひ、幼児から原村の寺子屋兼行堂で大島長直に学んだ。17歳になる天保6(1835)年に楢原に「雲龍堂」と称して寺子屋を創立、読み書きを教える。門人は有年を中心に上郡・相生から岡山県にまでおよび、最盛期は200人以上に達したといひ、墓石には先生を讃えた碑文と歌3首が刻まれ、台座には建立した門人らの名前が刻まれ、往時の寺子屋の隆盛がうかがわれる。
64	寺田翁之碑	●	26						●	淳泰寺を創建した寺田弥治郎(法名淳泰)の顕彰碑。明治30(1897)年建立。
65	谷内裁縫先生寿碑	●	26						●	上郡町竹方より上青生谷内氏に嫁ぎ、近郷の子女数百名に裁縫、行儀作法を教えた。大正2(1913)年建立。
66	二本杉力士の碑	●	26						●	東有年と西有年の境を「傍示ケ墓」といひ、舌状にのびた尾根が平野に突出している。尾根の先端を西有年側にまわったところに数基の墓がある。ひとつは二本杉茂兵衛の墓で、明治9(1876)年に門人たちが建立したものの。幕末から明治にかけて西有年の大遺神社では宮相撲が盛んで、二本杉茂兵衛は勳進元であった。
67	安井先生墓	●	26						●	安井敏一は代々庄屋職の傍ら安井塾と称する寺子屋を拓き、村人に造花・三味線・浄瑠璃の諸芸を伝授した。明治2(1869)年に59歳で没し門人たちが明治14(1881)年に建立。墓碑に和歌を一首刻む。
68	馬嶋先生碑	●	26						●	馬嶋盛則は有年村で医業の傍ら教鞭をとり、有年小学校で学業を教えた。明治37(1904)年に71歳で没。同年に石碑が建立された。
69	三村先生碑	●	26						●	嘉永2(1849)年、西有年に生まれ、代々農業を生業とし諸芸に巧みで造花・池坊の道を深く究め、鶴瀬軒琴山の号を受ける。村会議員、村総代の職を久しく勤める傍ら青年を教導した。明治43(1910)年に墓碑を建立。
70	西田先生寿碑	●	26						●	信奉厚く、仏教教育の傍ら、茶道・音曲・生花・造花の技を広く門弟に指導、共有林の紛議解決に深い難局を重ね平和に処した功績を組合長から表彰された記録。明治45(1912)年に建立。
71	清水裁縫先生寿碑	●	26						●	旧赤穂藩に生まれ明治5(1872)年に有年村に転住、家事の傍ら子女に裁縫を教授した。教えを受けた針子は二百余人を教えた。大正3(1914)年に門弟らが建立。
72	高橋先生碑	●	26						●	明治20(1887)年、西有年生まれ。幼少より華道に志し西田先生門下で学び、池の坊、立正華、盛花、造花、料理を学び、広く青年有志に教授した。昭和31(1956)年建立。
73	西川勝岳軒寿碑	●	26						●	大正11(1922)年建立。
74	政家先生之碑	●	26						●	大正13(1924)年建立。
75	本田先生之墓	●	26						●	昭和11(1936)年建立。
76	福本先生之墓	●	26						●	福本嘉藤治は雲軒主人と号し、池の坊流派に学び、門人は300名を超えた。昭和6(1931)年建立。
77	明治天皇駐蹕記念碑	●							●	大正13(1924)年、明治18(1885)年8月8日、元本陣柳原逸郎郎にて御休憩された榮を後世に伝えるために建立。
78	明治天皇聖徳碑(東有年)	●							●	大正元(1912)年、東有年、中山、楢原の在郷軍人が明治天皇の徳を偲んで建立。
79	明治天皇聖徳碑(有年楢原)	●							●	明治天皇の徳を偲んで大正6(1917)年に建立した。
80	明治天皇聖徳碑(有年奉礼)	●							●	大正4(1915)年、奉礼・原・横尾の三か村の氏子が明治天皇を称えて建てた碑。
81	今上天皇即位記念碑	●							●	大正4(1915)年、大正天皇が天皇の位についてのを記念して奉礼・原・横尾の在郷軍人が建てたもの。
82	今上天皇駐蹕之碑	●							●	明治18(1885)年、明治天皇中国地方巡幸の帰路、鯉峠越えの休憩の場所となったことを記念し地元住民が明治29(1896)年に建立。
83	大遺神社(西有年)のケヤキ	●	25		●					幹周94.3mの巨木。ケヤキとして赤穂第1位と思われる。
84	有年中学校東土手のケヤキ	●	25						●	幹周93.5mの巨木。ケヤキとして赤穂第2位と思われる。
85	西有年・馬路池遺跡採集石	●	23 34						●	有年考古館には、馬路池で採集されたいくつかの凹基式石蔵が収蔵されており、形状から約10,000年前のものとも推定されている。
86	有年奉礼・山田遺跡出土「秦」線刻須恵器	●	23 31 34						●	有年奉礼・山田遺跡の発掘調査によって、「秦」と線刻された平安時代頃の須恵器の坏片が出土している。赤穂郡と秦氏との深い関わりを示す遺物である。
87	有年奉礼・山田遺跡出土装飾土器群	●	23 34						●	有年奉礼・山田遺跡の発掘調査では、弥生時代後期末における一辺19mの大型方周溝墓が発見され、有年原・田中遺跡と類似した装飾器台のほか、装飾壺、大壺型が出土した。
88	有年原・田中遺跡出土初期須恵器群	●	23 31 34						●	有年原・田中遺跡の発掘調査では、5世紀前半の須恵器壺、高坏や瓦質高坏、土師室瓶などが出土しており、渡来人との直接的な関わりが指摘されている。
89	蟻無山古墳群採集埴輪	●	23 34						●	蟻無山古墳は、発掘調査こそされていないが、円筒・朝顔形埴輪のほか、馬・鳥・船・蓋・家形埴輪など多様な形象埴輪が見つかっており、5世紀前半の盟主墳であることがわかっている。

有年地区の歴史文化遺産一覧 (3)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	も 場 所	地域 歴史 文化の 視点	赤穂を代表する歴史文化						解 説
				1	2	3	4	5	6	
90	蟻無山古墳群	◎	23 31 34 35							1号墳は、蟻無山山頂(標高70.4m)に所在する全長52mの傾立円形古墳で、東に造り出しを持つ。最古級の馬型埴輪のほか、形埴輪や初期須恵器などが出土。墳頂には有年地区から上郡町、相生市までを臨む眺望が広がる。古墳時代中期前半に築造されたものと推測され、この時代の古墳としては千種川流域で最大の規模を持つ。県指定。ほかに小墳が2基あり、1号墳は県指定史跡。赤穂の昔話では、古墳の築造にかかわる蟻の話が残る。(赤穂の民俗)
91	野田2号墳	◎	23							野田古墳群中の1基で、玄室に間仕切りを持つ特徴のある「祇園塚型石室」の標識遺跡。県指定。
92	木虎谷2号墳	◎	23							木虎谷古墳群中の1基で、墳丘の直径15.6m高さ6.5mの円墳で市内最大の横穴式石室墳。石室の全長9.5m、そのうち玄室の長さ3.3m、幅2.2m高さ2.4mあり、羨道は両袖式。「欄」と呼ばれる石の下にはほぼ同じ大きさの板石が敷かれていたと伝わることから、前方に蓋石を立て、側壁・奥壁を利用して石棺として用いたものと思われる。欄のある横穴式石室墳は播磨地方では比較的新しい。県指定。
93	塚山6号墳	◎	23							塚山古墳群56基中最大の古墳。墳丘規模は15.8m×17.5mの円墳で、玄室間仕切りをもつ大型横穴式石室を持つ。出土土器は須恵器の蓋付杯、台付長頸壺など5点。県指定。
94	有年原・田中遺跡	◎	23 25 29 31							弥生時代中期から室町時代まで続く複合遺跡。建物跡として弥生時代中・後期の竪穴建物跡群、古墳時代の竪穴建物跡群、飛鳥・奈良・平安時代の掘立柱建物跡群等が検出されている。弥生時代後期の大型墳丘墓とそこから出土した装飾土器が著名。県指定史跡で、公園として整備されている。
95	東有年・沖田遺跡	◎	23 24 25 29 34							縄文時代後期から室町時代に至る複合遺跡で、長谷川周辺から細長く南東にのびる沖積地の最南端に立地し、東は千種川、西と南は長谷川、北は有年山に囲まれている。千種川流域最大級の集落遺跡で、特に弥生時代、古墳時代、中世の集落跡が著名。県指定史跡で、公園として整備されている。
96	有年家長屋門	◎	22 25							有年家は江戸時代には柳原家と同様に代々庄屋を務めた。石垣上に構えた長屋門は江戸時代後期に建てられたもので、庄屋格の風格を見せる。市指定建造物。
97	塚山古墳群	●	23 34							総数56基の横穴式石室が集中する市内最大の群集墳。県史跡の塚山6号墳のほかにも間仕切りをもつ古墳が4基見られるほか、良好な遺存状況を見せる。
98	片山古墳群	●	23 34							平成26(2014)年以降の分布調査で見えられた後期古墳群で、2基からなる。
99	二又古墳群	●	23 34							平成26(2014)年以降の分布調査で見えられた後期古墳群で、2基からなる。
100	ハトカ茶畑遺跡	●	23 34							荒神山(北畠)のある新宮ヶ鼻と八幡神社(有年半礼)のある八幡山との間の谷間の台地を「ハトカ」という。谷の奥にある池の辺りは「茶畑」と呼ばれ、この付近から弥生土器片が採集された。
101	有年半礼・宮ノ前遺跡	●	23 29 34							ほ場整備に伴う発掘調査が行われ、鎌倉時代頃の掘立柱建物跡が見つかり、輸入青磁碗なども出土した。
102	有年半礼・山田遺跡	●	23 31 34							昭和61(1986)年から昭和63(1988)年にかけてのほ場整備工事に伴う発掘調査で見つかった弥生時代中期から鎌倉・室町時代に至る複合遺跡。弥生時代中・後期の竪穴住居、古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代の掘立柱建物跡群などの遺構やそれに伴う数多くの遺物が出土し、有力者が長い年月におわたって住んでいたことが判明した。平安時代の「秦」のへら描き須恵器片は、千種川流域における秦氏伝承の存在を裏付ける。弥生時代後期の方形周溝墓は、有年原・田中墳丘墓同様貴重な遺構。
103	有年半礼・井田遺跡	●	23							平成17(2005)年から行われた有年地区土地区画整理事業に伴う発掘調査で、縄文時代後期以降の複合遺跡であることが判明した。特に弥生時代中期、古墳時代後期の竪穴建物跡群が多く見つかり、焼土住居や鍛冶関連遺構などが発見されている。また集落縁辺部では古墳時代中期の石製模造品等を用いた祭祀跡も検出された。
104	奥山古墳群	●	23 34							塚山の谷を北へ登る斜面及び山頂尾根上に散在する3基からなる後期古墳群。うち1基は祇園塚型石室である。
105	ハトカ古墳群	●	23 34							有年半礼字ハトカの谷にある8基で構成される後期古墳群。
106	荒神山古墳群	●	23 34							有年半礼字藤ヶ谷の荒神山にある12基で構成される後期古墳群。残存状況は悪く、石材の散乱から判断しているものが多い。
107	山田奥窯跡	●	23 34							市内唯一の古代の窯跡。『赤穂市史』では9世紀末で操業した灰原(灰捨て場)を確認したとされ、平成26(2014)年以降に実施した分布調査では、7～9世紀代の土器類が多く採集されている。
108	北原遺跡	●	23 34							山崩れのため遺跡は大きく破壊されており、戦後の砂防工事により遺跡は完全に破壊された。遺物は砂防工事中に採集されたもので、石鎌・石鎌・磨製石斧・土器などが見つかった。
109	北原古墳群	●	23 34							奥山の西側斜面一帯に広く分布する古墳群で、6基で構成されるが、うち3基は箱式石棺で現在確認できない。5号墳は両袖式もしくは祇園塚型の横穴式石室と推定されている。
110	奥山古墳群	●	23 34							原小学校裏山の奥山にある中後期の古墳群であるが、昭和20年代の砂防工事によって、かなりの改変を受けている。これまでの調査記録から15基は存在していたと思われるが、現在確認できるのは11基である。1号墳からは埴輪、須恵器、鉄鎌が、4号墳からは埴輪、短頸短甲等が出土したとされる。
111	有年原・北畠遺跡	●	23 34							有年原・北畠遺跡は、有年原字北畠の台地にある。東は惣計谷を越えて津村に接し、西は木虎谷と境している。民家や田畑のある扇状地からその裏山にあたる北山一帯に広がる遺跡。採集遺物は、石器・土器など数十点に及ぶ。
112	有年原・クルマ遺跡	●	23 34							縄文時代後期以降の遺跡。縄文時代晩期や古墳時代初期の竪穴建物跡が見つかったほか、奈良時代の墨書土器が発見された。また、8～9世紀に形成された土坑列が条里型地割に並行して検出され、これまで不明だった地割の設定時期が同時代である可能性が高まった。
113	惣計谷古墳群	●	23 34							木虎谷古墳群の東側尾根上から原地区共同墓地北西部の丘陵斜面一帯にある、21基で構成される後期古墳群。うち2基は祇園塚型石室である。
114	惣計谷奥古墳	●	23 34							直径12mの円墳で、玄室幅1.9mの両袖式横穴式石室をもつ。祇園塚型石室であり、市内有数の大型古墳である。
115	津村古墳群	●	23 34							北山池北側の丘陵斜面にある、9基で構成される古墳群。6号墳は「津村古墳」として報告されており、箱式石棺内から鉄鎌が出土した。
116	玉堀古墳群	●	23 34							蟻無山の北東あたりにある5基からなる後期古墳群で、現状は4基が確認できる。
117	有年原・田中墳丘墓	●	23 34							1号墳丘墓(円形周溝墓)は直径約19m、陸橋部と突出部をもち、弥生時代後期の多量の装飾土器が出土した。出土遺物の中で壺や器台は、後に出現する特殊壺・特殊器台の祖形とみられ、葬送儀礼に使用された供献土器であり、蓋遺構とともに兵庫県下でも類を見ない遺跡である。
118	木虎谷古墳群	●	23 34							西池の北側斜面に広く分布する後期古墳群で、21基で構成される。2号墳は石柵をもつ両袖式横穴式石室、8号墳は祇園塚型石室、11号墳は発掘調査後消滅した。16号墳と呼んでいるものは箱式石棺2基である。
119	木虎谷遺跡	●	23 34							木虎谷は奥山と北畠山との間にある谷。緩い斜面に横穴式石室墳があり群集墳を形成している。群集墳に交じって谷の東より2基の箱式石棺墓が頭を顔て並んでいる。
120	野田遺跡	●	23 34							昭和52(1977)年に道路拡張工事が施されるにあたり事前調査がなされた。磨滅の激しい弥生土器が多く、上流から流れてきたものと推測される。その他石鎌などの石器類が採集されている。
121	野田古墳群	●	23 34							野田地区はかつて弥生の大集落があったところで、弥生中期の土器が採集されている。集団の首長の墳墓として山地地区に残っている竪穴式石室墳があり、その後、横穴式石室を造ることが波及したと考えられる。
122	上所二又溝遺跡	●	23 34							昭和57(1982)年、ほ場整備事業の時に、数点の土器を採集。
123	上所山田遺跡	●	23 34							山麓の東斜面にあたり、高坏形土器を1点発見。
124	三軒家遺跡	●	23 34							昭和15(1940)年頃、付近の西斜面開墾中に数点の土器片が発見され、その後に石鎌1点が見つかる。峠上の立地から高地性集落の可能性が考えられる。
125	三軒家古墳群	●	23 34							後藤陣山の南側一帯に散在している。峠の山頂に至る間に8基ある。林道工事によって峠頂上部に近い3基は失われている。全8基。
126	中所古墳群	●	23 34							北は精谷山から南は後藤陣山に至る東側の斜面に7基の古墳が築かれている。
127	番ヶ瀬古墳群	●	23 34							東有年から黒沢山へ登る道の西側山裾に円墳が並んで築かれている。この古墳を築いた集団の生活基盤は片山地区の山麓にあったと思われる。
128	精谷山遺跡	●	23 34							精谷山は数寄寺の裏にそびえる標高200mほどの山。頂上に横穴式石室墳があり、その南側下方へ20mほど下った平坦地の北側に箱式石棺墓の崩れとみられる2つの平石が立っている。
129	下菅生遺跡	●	23 34							西有年から流れていた長谷川が東有年の谷口で千種川と合流するあたり一帯の地。砕石工場ができて山容は著しく変わったが、作業場のあるあたりが「下菅生」とよばれるところである。採石作業場建築にあたり整地中に土器1点が採集された。
130	上菅生遺跡	●	23 34							清水山の南東山裾に位置し、山からの土砂堆積によって形成された扇状地と長谷川の氾濫原上に立地。弥生時代後期の竪穴住居跡や柱跡などが検出されたことから集落跡と考えられ、長谷川を挟んで対岸の有年・沖田遺跡との関係が注目される。竪穴住居跡からは、弥生土器以外に柱状片刃石斧や鉄鎌などが出土。縄文時代後期の土器を包含した層が確認されており、周辺に当時の営みがあったことが推測される。

有年地区の歴史文化遺産一覧(4)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	も	場	と	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説	
						1	2	3	4	5	6		
131	東有年・沖田古墳群	●			23 34								● 東有年・沖田遺跡は古墳時代後期の竪穴建物跡が多数見つかっているが、それとは別に横穴式石室を主体部としたと思われる後期古墳群の痕跡が3基発見されている。
132	放亀山古墳群	●			23 34 35								● 大鷹山から東へのびる尾根が一段低くなって千種川岸に達するあたりを放亀山という。尾根上に4基、南斜面中腹に1基の古墳がある。全5基。1号墳は全長約40mを測る古墳時代前期前半の前方後円墳。
133	西有年・遠古殿遺跡	●			23 34								● 有年小学校付近に広がる遺跡で、ほ場整備事業に先立って平成5(1993)年に発掘調査が行われた。弥生時代中期の竪穴住居跡をはじめとする多くの遺構・遺物が発見され、弥生時代中期の大集落であることが判明した。
134	西有年・往來南遺跡	●			23 34								● 上組集落の周辺に広がる遺跡。平成4(1992)年にほ場整備に先立つ発掘調査が行われた。南北朝時代ごろの掘立柱建物跡13棟と鍛冶工房3基が見つかった。掘立柱建物跡群の中には2棟1組の長屋風の建物と他の1棟がコの字型に配置されているものがあり、鍛冶集落を知る上で興味深い。鍛冶工房跡には炉が備えられており、フイゴの羽口・鉄滓・金床石・砥石などの鍛冶道具や鉄釘・刀子などが出土。
135	西有年・垣内田遺跡	●			23 34								● ほ場整備に先立つ発掘調査によって見つかった。弥生時代中期にはじまる集落跡。規模は小さいが、このような小集落が付近一帯に転々と存在するものと思われる。
136	西有年・宮東遺跡	●			23 34								● 大避神社(西有年)の東に位置し、平安時代末期と思われる掘立柱建物跡3棟などが発見された。
137	西有年・玄形遺跡	●			23 34								● ほ場整備に先立つ発掘調査によって見つかった。弥生時代中期にはじまる集落跡。規模は小さいが、このような小集落が付近一帯に転々と存在するものと思われる。
138	西有年・香山遺跡	●			23 34								● 西有年長根から横山に抜ける街道沿いにあり、土器類が採集されている。
139	黒鉄山土器片出土地	●			23 34								● 赤穂市内最高峰、標高430.9mの黒鉄山の山頂から少し東へ下った斜面から土器破片出土。
140	西有年・柴床遺跡	●			23 34								● 馬路池の近くにある。ほ場整備事業に先立って調査された近世の遺跡。
141	西有年・長根遺跡	●			23 29 34		●						● 平成3(1991)年にほ場整備事業に先立ち発掘調査が行われ、多数の遺構・遺物が見つかった。7～8世紀の掘立柱建物跡15棟と、付近から出土した円面硯や「大」とへら描きされた須恵器皿が特に注目される。この地には律令時代の役所があったと思われる。このほか室町時代の井戸跡からは日本最古の出土例である木臼が出土。
142	長根古墳群	●			23 34								● 1号墳は長根山の東斜面中腹にあり、2号墳は南斜面にあった。
143	西有年・堂場分市遺跡	●			23 34								● 東中野集落に位置し、中世の掘立柱建物跡が多数見つかっている。
144	西有年・堂免遺跡	●			23 34								● 北組集落周辺にある奈良時代から平安時代の遺跡。
145	馬路池遺跡	●			23 34								● 市内最古の遺跡で縄文時代早期・前期にまで遡ることができる。松岡秀夫らにより発掘調査が行われ、石鏝など多数の石器類が出土している。
146	西有年・畑田遺跡	●			23 34								● ほ場整備に先立つ発掘調査によって見つかった。弥生時代中期にはじまる集落跡。規模は小さいが、このような小集落が付近一帯に転々と存在するものと思われる。
147	西有年・北遺跡	●			23 34								● 昭和63(1988)年に、工場建設予定地内の発掘調査で発見された鎌倉時代の集落遺跡。2棟分の掘立柱建物跡等が見つかった。
148	北山古墳群	●			23 34								● 西有年北山一帯にある古墳群で、西山田に2基、山田に2基ある。いずれも集落地の北の山のの中腹斜面である。全4基。
149	西有年・木ノ目池の下遺跡	●			23 34								● 古墳時代後期の流路が検出され、土器や木製品が多量に出土。古墳時代後期の竪穴住居跡も発見されている。
150	西有年・木ノ目池遺跡	●			23 34								● 原組集落周辺にある縄文時代から室町時代にかけての遺跡。
151	与井谷口古墳群	●			23 34								● 全33基の小規模な積石塚群。一部が発掘されて須恵器が出土し、古墳時代後期とされている。
152	西有年・与井谷口遺跡	●			23 34								● 東中野集落に位置し、中世の掘立柱建物跡が多数見つかっている。
153	西有年・大山遺跡	●			23 34			●					● 坂折池南の丘陵谷部にあり、初期備前焼とともに窯壁片が採集されたことから、窯が築かれていたと推定されている。
154	高野須城跡	●			23 24 29 32 34			●					● 相生市との境にある荒山(標高316m)の頂上にある。石垣の一部が残る。谷には馬場と伝わるところもあるが、規模構造は不明。城主は赤松右馬助正澄。上月城赤松政範のおじにあたる。天正5(1577)年に羽柴秀吉軍が上月城を攻めた時、政範とともに戦死。頂上には「龍王山の祇園さん」とよばれた祇園神社があり、雨乞いの神として地元で信仰を集めていたが、現在は八幡神社(有年牟礼)に合祀。龍王山の名は雨乞いの神・龍神が住むと伝わることから、海神社とも言う。
155	鶴ヶ堂城跡	●			23 24 29 32 34			●					● 駿行寺裏山の三重山の山頂(標高196m)に鎧形郭式山城跡がある。三重山は小さな山が三つ重なり一直線に見えることか呼ばれ『播磨鑑』には「影なしの峯」と書かれている。その昔は山頂に傘松(からかさまつ)と呼ばれる巨木があり、山頂が円錐の先端のようにとがっていたため、一日中松の影が見えないことからつけられた名で、駿行寺の七不思議の一つ。山頂から南へ尾根づたいに曲輪、石垣、堀がある。現在山頂には、鶴ヶ堂城展望台がある。城主は赤松氏の出の太田(小田)弾正。
156	後藤陣山城跡	●			23 24 34								● 有年橋原の三軒家集落の背後、標高150mの山頂にある。一部に石垣を備えた広い曲輪が東西に並び、これを帯曲輪が2段に巡っている。城主は後藤某と伝えられるのみで、詳しいことはわからない。
157	鍋子城跡	●			23 24 29 34			●					● 東有年と中山の境、標高147mの急峻な山頂にあり、別名を大鷹山城、谷口城、中山城ともいう。『播磨鑑』によれば、最初の城主は田舎守前と呼ばれた土豪であるらしい。その後赤松秀光の三男小河丹後守秀春や富田右京などが居城したという。城跡には、鎧形郭式に配置された曲輪の跡が残り、室町時代と思われる瓦片も見つかっている。城跡の下方の岩盤には湧水があり、現在これを壺水とし「大龍権現」が祀られている。
158	有年山城跡	●			23 24 29 34								● 八幡神社裏の標高220mの山頂にあり、八幡山城・大鷹山城ともいう。現在曲輪となる平地や土塁・堀などの痕跡が認められる。曲輪の配置は鍋子城と同じ鎧形郭式で、市内最大の規模を誇る。古書によれば、この地に最初に城を築いたのは赤松信濃守範資の三男本郷掃部介直頼で、貞和年間(1345-50)のことという。直頼のあとこの城に居城したのは富田右京である。富田右京は有年山城の南に位置する鍋子城からこの城に移ったが、その後浦上宗景に攻められて滅びたという。
159	清水山鹿寺跡	●			23 24 29 34			●					● 東有年山手にある浄泉寺は元清水山にあった。削平地や池が残る。
160	須賀神社(黒尾)	●			25			●					● 「黒尾の荒神社」と呼ばれ、農耕の神として素戔嗚命を祀っている。社には、赤穂市指定有形文化財である黒尾須賀神社義士画像図繪馬が奉納されていた。
161	八幡神社(有年牟礼)	●			25 31 33			●					● 周世八幡神社からの分霊。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功天皇の三神。「農耕図繪馬」をはじめ法橋義信画、清原千古画の絵馬が数多く残っている。大避神社を合祀。
162	八幡神社(東有年)	●			22 25 33			●					● 祭神は菅田別命(応神天皇)、菅中津日子命(仲哀天皇)、息長帯姫命(神功皇后)。上郡町山ノ里安室川町に鎮座していたが洪水のため流れ、東有年中河岸の大杉にかかっていたのを土地の人が祠をたて奉斎したという。境内には竹内宿禰命を祀る社、水神社、荒神社3社、もと黒沢にあった須賀神社を合祀。
163	御旅所	●			22 25 33			●					● 有年保育所西側にある八幡神社(東有年)の御旅所。かつて上郡町山野里にあった八幡神社の社殿が洪水で流され、ここにあった松の大木に流れ着き、これを現在の場所に祀ったという八幡神社(東有年)の伝承地である。
164	須賀神社(谷口)	●			25			●					● 明治4(1871)年奉遷。小祠に稲荷、荒神、猿田彦の三神を合祀。
165	須賀神社(有年原)	●			25			●					● 寛政5(1793)年、八幡神社(有年牟礼)の改築古材で建て、有年原全村の荒神を合祀した。別名「北畠の荒神さん」。
166	須賀神社(野田)	●			25			●					● 祭神は素戔嗚命、倉稲魂命。
167	須賀神社(中所)	●			25			●					● 祭神は素戔嗚命と天照大神。
168	須賀神社(檜原新田)	●			25			●					● 祭神は稲倉魂命、素戔嗚命。境内に明治天皇聖徳碑がある。「くもじ祭り」が毎年7月に境内でおこなわれている。
169	須賀神社(上所)跡	●			25			●					● 上所の須賀神社は明治42(1909)年、中所の須賀神社に合祀された。跡地には記念碑が建つ。
170	須賀神社(三軒家)跡	●			25			●					● 三軒家の須賀神社は明治42(1909)年、中所の須賀神社に合祀された。跡地には記念碑が建つ。
171	大避神社(西有年)	●			22 25 31 33			●					● 創立年代不詳。『播磨鑑』に紅葉の名所と紹介される西有年野々宮にあり、祭神は秦河勝。その他、寄せ宮に天照皇大神、菅原道真、素戔嗚命、牛頭天王、少将井宮などが合祀されている。絵馬堂には、法橋に叙せられた北条文信画の赤穂義士絵馬、宮相模力士番付表が奉納されている。なお須賀神社本殿の床下から発見された前句集額には市指定文化財に指定された。
172	大避神社(横山)	●			25 31			●					● 戦後の横山地区の開拓に伴って移されたと伝わる。
173	大避神社跡(有年牟礼)	●			31			●					● かつて大避神社が鎮座していたが、明治38(1905)年3月18日に有年牟礼の八幡神社に合祀された。近年までは、社と地状地形のほか、水路と陸橋が残されていたが、有年地区土地区画整理事業によって整地された。
174	山王神社	●			25			●					● 元は駿行寺にあり、有年横尾の山の山に横尾荒神社、稲荷神社、塞之神社を境内社として合祀し、現在地の須賀神社と併せ移された。

有年地区の歴史文化遺産一覧(5)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	場所	地域史 文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
				1	2	3	4	5	6	
175	光明寺	●	25	●						もとは黒沢山山頂にあったが、文化3(1806)年に現在地に移った。境内の石仏としては西国八十八ヶ所石仏、西国三十三ヶ所石仏のほか阿弥陀三尊像、馬頭観音菩薩像、弘法大師像、地藏菩薩像(延命地藏・予守地藏・水子地藏)がある。山号は黒澤山。
176	光明寺跡 (奥の院)	●	24 25 29 32 34	●						東有年片山背後の標高332mの黒沢山山頂にあり、真言宗高野山派。創建は大元(806)年に弘法大師が唐から帰郷の途、この寺を建立と伝わる。南北朝時代の『峰相記』に名がみえ、既に播磨でも有力な寺院であったことがわかる。山頂一帯にあった堂宇や僧坊は永祿年間(1558～1569)の初めに尼子晴久の乱により焼失。以後江戸初期に姫路藩池田輝政に田畑の寄進を受け、いくつかの建物が再建されたが、文化3(1806)年に現在の東有年片山に移った。現在もいたるところに多数の五輪塔や宝篋印塔のほか、不動明王像、阿弥陀如来像、地藏菩薩像など数多くの石造物がある。
177	教専寺	●	25	●						創立は戦国時代、赤松則村の家臣、清水権太夫の孫源之進、上郡町細野白旗山の合戦に敗れ仏門に入り、釈迦教と称し精谷山教専寺なる一字を永享2(1430)年に建立した。山号は精谷山。
178	明源寺	●	25	●						元験行寺にあったが、中世頃蟻無山の麓に下山したといふ。天文元(1551)年、浄土真宗東本願寺派十代証如時代、真言宗より転じ浄土真宗となる。山号は靈應山。境内には源氏流活花の家元、千葉龍武の墓碑や、半肉彫りで舟形後背をもつ石造地藏菩薩像(像高47cm)がある。
179	浄泉寺	●	25	●						大永2(1522)年、僧了専法師が東有年清水山に創立。後に東有年山手に移す。浄土真宗本願寺派。山号は清水山。
180	淳泰寺	●	25	●						西有年東中野にある浄土真宗本願寺派の寺院。代々西有年の庄屋を勤めていた寺田家の弥次郎が明治8(1875)年に開基。山号は小亀山。
181	大円寺	●	25 32	●						浄土真宗大谷派の寺院で、大永2(1522)年に宗誓による開基とされる。もとは西有年横山の六道山にあり、本堂は5間4面で鐘楼等もあったといふ。山号は六道山。
182	阿弥陀寺	●	25	●						有年橋原にある浄土真宗本願寺派の寺院。山号等は不明。
183	験行寺	●	24 25 29 35	●						医王山上にある真言宗古義派の寺院で、天平2(730)年に行基が築いたと伝わる。境内は室町時代の五輪塔が多く残り、その礎石や五輪塔などが多数残る。採集された備前焼の壺は鎌倉時代末期から室町時代初期のものと考えられ、五輪塔や採集土器から判断すれば、室町時代の寺院である可能性が高い。西有年原組の大円寺がこの六道山にあり、現在の塩屋の阿弥陀堂に安置されている阿弥陀仏が、この遍照院の本尊であったと伝わる。
184	遍照院跡	●	22 24 25 29 32 34	●						『赤穂郡誌』や『播磨鑑』によると、創建は高麗の僧惠便が推古天皇8(600)年にこの地に一堂を建てたことに始まるといふ。寺跡には礎石や五輪塔などが多数残る。採集された備前焼の壺は鎌倉時代末期から室町時代初期のものと考えられ、五輪塔や採集土器から判断すれば、室町時代の寺院である可能性が高い。西有年原組の大円寺がこの六道山にあり、現在の塩屋の阿弥陀堂に安置されている阿弥陀仏が、この遍照院の本尊であったと伝わる。
185	小山稲荷	●	25	●						最上稲荷小山大明神と称する。昔、西有年清水山にあったが上組の人が不便だったのか昭和11(1936)年に上組河本氏所有の上組小山に移築し祀られている。
186	末広稲荷(西有年)	●	25	●						池魚塚(西有年の横にある稲荷神社。昭和20(1945)年代の初めに建立され、もと長谷川に架かる新橋付近にあったものが国道拡幅の際に移転されたもの。
187	末廣稲荷(横尾)	●	25	●						有年横尾の山裾に多数の鳥居とともに祀られている。
188	薬師堂(山田)	●	25	●						本尊の薬師如来像には「寛永十一(1634)年卯月(6)月八日近藤普濟作」の銘がある。境内には五輪塔、宝篋印塔がある。東方に「薬師の清水」と呼ばれる湧き水井戸がある。
189	薬師堂(片山)	●	25 35	●						片山の背後の山の腹にあり「承応3(1654)年法眼康賢七条大仏師」と銘のある木造の薬師仏を祀る。境内の片隅には五輪塔が数基祀られている。堂の付近に清水があり、眼病・疔によく効いたといふ。(赤穂の昔話)
190	妙見堂	●	25	●						本尊は約10cmの木像。由来等は不詳。元は明源寺の西にあった。
191	小鷹の観音堂	●	25 35	●						浅野長直の建立と言われる。『播磨鑑』によれば、岩に鷹の爪跡があることから「小鷹」の名が付いたと伝わる。昔話に本尊を千種川から拾い上げた説話が残されている(赤穂の昔話)。境内には地藏菩薩の石仏が2体安置されている。
192	北畠家屋敷跡石門	●	25	●						有年原村の庄屋北畠家の門跡、巨石が残されている。
193	有年宿番所跡 (旧松下家宅跡)	●	22 25	●						寛永年間(1624～44)頃、東有年に有年宿が移された。赤穂藩役人は出張の際ここに宿泊し、前庭を白洲にして番所として利用したと伝えられる。周囲の人たちは「御番所」とも呼んだ。
194	有年本陣跡 (旧柳原家宅跡)	●	22 25	●						柳原家は有年家と並び代々庄屋を務めた家であり、建物は参勤交代の大名の宿泊施設として使用された。有年宿は多くの旅館屋、茶屋でにぎわった。なお本陣跡の建物は赤穂八幡宮南側の桃井邸に移築された。
195	寺子屋「正訓堂」跡	●	25	●						赤穂木生谷出身の三宅光能によって創建された。明治6(1873)年には「時習学校」と改名した。現在の原小学校の前身のひとつである。原本村の中程にあった。
196	立場跡	●	22 25	●						立場は有年の宿を出て西に進み、難所の峠にかかる前でここで駕籠を修理、人足・伝馬の休息や交代に使われたところである。この建物は駕籠が軒下まで入るよう軒が深く縁が狭い造りとなっていたが、現在は解体されている。
197	高瀬舟灯台	●	22 25 27 30	●●●						八幡神社(有年の境内)には「山の灯台」があり、かつて千種川を上した高瀬舟に便を与えた。
198	旧有年橋橋台	●	22 25 27	●●						江戸時代には有年宿東の千種川には橋が架けられていなかったが、明治43(1910)年になって全長202mの県下最初の鉄製橋が架けられた。現在もレンガ製の橋台が残されている。
199	船着場跡	●	22 25 27 30	●●●						江戸時代には有年横尾は安志藩小笠原領に属しており、その安志藩の船着場が千種川と矢野川の合流から上流約100mの山沿いであった。
200	亀の甲	●	22 25 27	●●						千種川にかかる国道2号有年橋左岸上流約100m間の石畳を亀の甲と呼んだ。現在は千種川の河川改修でその面影はない。赤穂藩浅野時代の護岸兼高瀬舟の荷積み場、城代家老大野九郎兵衛の陣頭指揮によるものと伝わる。
201	大波止・小波止	●	22 25 27 30	●●●						有年中学校の南、千種川のほとりに大小の波止があり大きい方を「大バト」、小さい方を「小バト」と呼ぶ。波止という名の通り水流を逃し高瀬舟が着岸できる施設があった。明治以降の堤防改修の際に手が増えられ、現在大バトは間知積みの堅固な石垣を見ることができ、小バトは土砂に埋もれている。
202	一里塚跡(西有年)	●	22 25 27	●						江戸日本橋を起点として、全国諸街道の一里ごとに土を盛り多くはエノキを植えて旅人の目印とした。有年横尾の塚の元からここまでが一里である。
203	一里塚跡(塚の元)	●	22 25 27	●						「原村文書」にある絵図に描かれた一里塚の場所。「塚の元」という地名の由来でもある。
204	一里塚公園	●	22 25 27	●						国道373号沿いの須賀神社の北東隣にあり、平成2(1990)年に建設。国道沿線の市町観光ポイントを陶板タイルにはめ込んだイラストマップや藤棚休憩舎が設置されており、千種川を臨むドライブの休憩スポットとなっている。
205	とんぼ塚跡	●	25 35	●						昭和初め頃には直径4m、高さ1mくらいあったと伝えられ、とんぼのすみかとしての昔話が語り継がれている。(赤穂の昔話)
206	さいじょうはん (弁慶の足がた)	●	35	●						八幡神社(東有年)の上に大きな岩が重なりあったものを「さいじょうはん」と呼び、そこに弁慶の足跡があるといふ。(赤穂の昔話)
207	大龍権現	●	25 35	●						中山集落の北、鍋子山の腹に祀られている。麓に建てられた鳥居をくぐり山道を登ると、途中に大師堂があり、そこから更に登ると右手に大龍権現と書かれた石碑が、その下の清水湧いているところに祠がある。昭和10(1935)年ごろ、湧き出る清水を使うと足の病がなおると夢見せがあったと伝わる。ここには龍が水を飲みに来たといふ、万病に効くとされている。(赤穂の昔話)
208	水車と用水路	●	25	●●						田んぼに水をひくための水車のある風景はかつては有年の田園地帯でよくみられたが、現在は有年橋原に一基を残すのみである。
209	旧西国街道	●	22 25 27	●						江戸時代の街道の一つで、「近世山陽道」ともいう。京都から下関までの経路。
210	筑紫大道	●	22 24 27	●						中世における山陽道。元寇に備え、博多湾岸の石築地とともに設置された軍用道路。京都六波羅探検から博多まで約600kmに及んだと考えられている。ルートは旧西国街道と一致していると考えられる。
211	黒鉄山	●	35	●						大津地区の北側にそびえる黒鉄山は標高430.9mを誇る。頂上からは北は中国山脈、南は淡路島・四国が望める。第二次世界大戦までは山麓で銅鉱石の採掘が行われていた。大正時代初期頃まで、早稲づつには降雨の祈りをこめて村人総出で山頂にうす高く積み上げた藪を焚いて雨乞いを行った。氏神様を崇めなかった大津への天罰に関わる昔話がある。(赤穂の昔話)
212	鯉峠	●	22 25 27 35	●						有年と上郡町梨ヶ原間の峠。若い男女に化けた鯉の説話から鯉峠と言われている。(赤穂の昔話)
213	有年峠	●	22 25 27	●						西有年立場から梨ヶ原へ抜ける旧西国街道の峠。
214	清水峠	●	22 25 27	●						上管生から横山へ至る峠。
215	周世坂峠	●	22 25 27	●						周世より有年へ通じる陸路で、かつての主要道であった。
216	千種川	●	25 27 30	●●●						加古川・市川・掛保川・夢前川と並び播磨五川の一つ。清流で知られる水百選にも選ばれている。水深が浅く流速が遅いため川底の石の苔の育成が良く、兵庫県下で屈指のアユ釣り場。
217	長谷川	●	22 25 27	●●						横山から西有年を経て上管生から千種川へ流れる。
218	矢野川	●	22 25 27	●●						相生若狭野方面から有年原を経て千種川へ流れる。

有年地区の歴史文化遺産一覧 (6)

※視点番号は 252 頁を参照。

No.	名称	もの	場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説	
						1	2	3	4	5	6		
219	有年大池	●			25	●	●						長谷川の upstream に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。12年かかって昭和28(1953)年に完成。満水時貯水面積51,800㎡を測る。
220	馬路池	●			25 35 36	●	●						鯉峠の谷に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。満水時の貯水面積が55,800㎡を測る、千種川流域最大の池。
221	長谷池	●			22 25	●	●						長谷川の upstream に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。
222	坂折池	●			25	●	●						上組の谷に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。満水時貯水面積54,200㎡を測る。
223	木ノ目新池	●			25	●	●						山田地区の谷に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。
224	木ノ目池	●			25	●	●						山田地区の谷に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。
225	稗田池	●			25	●	●						清水山麓に、西有年地区農地の水不足対応のために築かれた。
226	片山池	●			25	●	●						片山地区の谷に、東有年地区農地の水不足対応のために築かれた。
227	ハトカ池	●			25	●	●						牟礼地区農地の水不足対応のために築かれた。
228	猪垣	●			25	●	●						各地の山麓にあり、鹿、猪その他獣類の侵入を防ぐために築かれた土練堀。
229	東池	●			25	●	●						有年原地区農地の水不足対応のために築かれた。
230	西池(有年原)	●			25	●	●						有年原地区農地の水不足対応のために築かれた。
231	西池(有年牟礼)	●			25	●	●						有年牟礼地区農地の水不足対応のために築かれた。
232	奥池	●			25	●	●						有年牟礼地区農地の水不足対応のために築かれた。
233	中池	●			25	●	●						有年牟礼地区農地の水不足対応のために築かれた。
234	有年村役場跡	●			25	●	●						明治22(1889)年、東有年に建てられていたが昭和30(1955)年に有年村は赤穂市に編入され旧村役場の玄関部分と門柱は有年考古館の玄関として移築保存されている。
235	松岡医院棟跡	●			25	●	●						大正4(1915)年、松岡興之助が松岡眼科病院を創立し、当時多発したトラホームの早期治療とその予防のため学童の定期検眼、生活改善に寄与した。病棟は木造2階建、棧瓦葺、寄棟屋根、外壁下見板張であった。現在は解体された。
236	赤穂鉄道有年駅跡	●			22 25 27 30	●	●	●					大正10(1921)年に開通した赤穂軽便鉄道の有年駅、国鉄有年駅に隣接する形で配置され、軽便鉄道のルートは南部からのかつての高瀬舟のルートをはばなぞるよう設定されていた。
237	赤穂鉄道線跡	●			22 25 27	●	●	●					赤穂鉄道の線跡は、昭和26(1951)年に国鉄赤穂線が敷設された後、赤穂市へ寄付され、市道として現在も市民の生活に役立っている。
238	赤穂市立有年考古館	●			23	●	●				●		昭和25(1950)年に松岡考夫によって開設された考古館。あわせて民俗資料館とも称した。旧赤穂郡内の考古資料を中心に収集されており、1,250点は赤穂市指定有形文化財となっている。平成23(2011)年に赤穂市へ寄贈され、赤穂市立有年考古館としてリニューアルオープンした。
239	国道2号	●			22 25 27	●	●						旧西国街道を前身としつつ、ほぼ直線を通すように敷設された国道。
240	国道373号	●			22 25 27	●	●						山陽地方と山陰地方を結ぶ路線で、赤穂市から岡山県を經由して鳥取県鳥取市に至る。
241	JR有年駅	●			25 27	●	●						明治23(1890)年、山陽鉄道有年駅として開設。隣接して赤穂鉄道有年駅も建てられた。駅舎は県内現存最古であったが、平成29(2017)年に解体された。
242	あこう河鹿の森	●			25	●	●						有年大池の上流一帯約54haに河鹿が生息していることから「あこう河鹿の森」と命名し、平成13・14年度に森林空間総合整備事業として遊歩道約2.7kmや林相整備が行われた。上流には百間滝や百間岳があり、さらに進むと大津帆坂の砕石採取場に通じている。
243	赤穂ふれあいの森	●			25	●	●						赤穂市の北部に広がる約180ヘクタールの広大な森林。シイの自然林、人々の生活に深くかかわってきたアカマツ・コナラの里山、県下では珍しいシリブカガシの林などが見られる。毎夏期間限定でカブトムシ観察施設「かぶ〜んうね」がオープンし、山の斜面を利用した観察場で昆虫に触れながら遊べる。
244	東有年八幡神社 頭人行事 (付)東有年鎮座八幡 神社祭礼絵馬1面	●		◎	33	●	●				●		秋祭りは神事・頭人行列が行われ、神社の東約800mにある御旅所まで練り歩く。頭人行列は「お渡り」と呼ばれ、屋敷1基と頭人の乗った豪華な神輿3基が行列をなして御旅所へ向かう。頭人は小学生が務める稚児頭人で、頭人の家であることを示す「オハヤ」とよばれる目印を設置するなど、古い祭礼の形態が残り、市の無形民俗文化財に指定されている。絵馬は、山頂の八幡神社から東有年の街道筋を、神輿が御旅所まで練り歩く様子を描いたもの。
245	旧有年宿のまちなみ	●			22 25 27	●	●						江戸時代の参勤交代で栄えた宿場町の風情が残る。『慶長播磨国絵図』には西有年に有年宿が置かれており、その後の参勤交代実施にあたって、橋の架けられなかった千種川の川待ちのための宿場町として移転したと考えられる。
246	彼岸花(しぶら)	●			25	●	●						「しぶらの里」とよばれる所以となったヒガンバナが生自する風景は、有年を代表する秋の農村風景である。
247	源氏流活花	●			25	●	●						明源寺の開祖千葉龍下によって創流され、一時は江戸に三千余名の門人があったという。
248	アユ釣り	●			25	●	●						千種川漁業協同組合により保護区、釣場や遊漁期間が定められている。おとりを使った釣り師が一般的で、釣りを楽しむ人々の光景も千種川の季節の風物詩である。
249	タバコ	●			25	●	●						大正11(1922)年に西有年で栽培がはじまり急速に普及した。有年駅近くにも煙草収納所が設けられ近隣の村でも葉タバコ栽培が盛んになった。
250	横山の開拓	●			25	●	●						昭和16(1941)年に食糧自給強化を目指す農地開発法により開始。翌年には神戸より4戸、養父郡より3戸が入植、その4年後には18戸になり開拓村が組織された。戦後は食糧難と海外からの引揚者の就労対策事業として継続され、昭和24(1949)年に有年開拓農業協同組合が組織された。
251	千種川の景観	●			22 25	●	●						千種川とその支流である矢野川、長谷川は自然豊かな景観を残す。
252	光明寺跡からの眺望	●			25	●	●						光明山山頂の光明寺跡からは、有年原・有年横尾の一角が広く望める。
253	光明寺の紅葉	●			25	●	●						光明寺境内の八十八箇所石仏周辺の秋の景観。
254	八幡神社(有年牟礼)の紅葉	●			25	●	●						有年牟礼を見下ろす神社の秋の景観。
255	田園風景	●			25	●	●						ほ場整備は実施されているものの、水田風景が残されている。
256	鶴ヶ堂城跡展望台からの眺望	●			24 25	●	●						中世城郭の鶴ヶ堂城跡の郭内には展望デッキが設置されており、有年牟礼・有年横尾・有年原の3地区を広く望むことができる。
257	放亀	●			35	●	●						地名。百姓が亀を助けた(放った)おかげで、洪水によって肥沃な土が運び込まれたという。(赤穂の昔話)
258	木虎	●			35	●	●						地名。キタウラが蹴ったものという説あり。
259	西有年	●			32 36	●	●						地名。近世は有年庄。水田面積1,194,437㎡を測り(兵庫県2013『西播磨西部(千種川流域圏)地域総合治水推進計画』)、千種川流域で最大の面積を誇る。
260	東有年	●			36	●	●						地名。
261	有年牟礼	●			36	●	●						地名。
262	黒沢	●			32	●	●						地名。近世は有年庄。かつて黒沢山中腹に黒沢村があったが、昭和30(1955)年頃より人口が減りだし、廃村となった。
263	檜原	●			32	●	●						地名。近世は有年庄。
264	栗栖	●			32	●	●						地名。近世は有年庄。
265	宿村	●			32	●	●						地名。近世は有年庄。
266	原	●			32	●	●						地名。近世は周世郷。
267	東	●			32	●	●						地名。近世は周世郷。
268	横尾	●			32	●	●						地名。近世は周世郷。
269	不動の淵(おけじゃ山)	●			22 27 32 35	●	●	●					黒鉄山から流れる長谷川が千種川にそそぐところを不動の淵といい、その裏山に建てられた山小屋で不思議なできごとがあったという。(赤穂の昔話)